

令和8年度

池田中学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○言語活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びを目指した授業を展開する。
○「授業のねらいの提示」「振り返りの時間の設定」により、学習への主体性を高め、理解度の定着を図る。

校長

岡本 博一

学力向上推進員

村上教頭、竹谷教務、山下(1年主)
峰友(英語・2年主)、鮎川(3年主)、森岡(国語)
逸見(社会)、宮田(数学)、前田(理科)
宮成(音楽・特別支援)、大西(美術)
伊原(保健体育)、矢野(技術家庭科)

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

・管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に前向きに取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、学習内容の理解につなげている。 ●家庭学習の充実が図れていない。せっかく理解した学習内容も定着しきれていない生徒がいる。	・学習を通して習得した知識を、他の授業で学習した知識や、読書で得た知識と関連付け、活用することができる。 ・望ましい家庭学習の習慣と学習方法を身につけ、学習内容を定着させることができる。	・生活記録や日々の課題を充実させるとともに、毎日朝読の時間を設け、読書時間を確保させる。 ・「各教科等における『令和8年度の重点』」を踏まえて作成した「学びナビ」を活用させ、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る学習方法を確立させる。 ・家庭での学習時間の確保が難しい生徒は、保護者と連携しながら望ましい学習習慣を身に付けさせる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○グループ活動において、班員が協力し、思考を深める学習活動に積極的に取り組んでいる。 ●文末まで正しく言い切る、また論理的な思考を表記するなどの表現活動が上手に行えていない生徒がいる。	・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを説明し、表現することができる。	・ホワイトボード・ミーティングの技術を活用したグループ活動の機会を設定する。 ・「質問の技カード」を用いて、質問によって判断の根拠や理由を引き出しながら、話し合い活動をさせる。 ・タブレットを効果的に活用し、学びの幅を広げ理解を深める工夫をする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○どの教科の授業にも落ち着いて取り組むことができ、教師の話聞き理解しようという姿勢が見られる。 ●授業での自分の学習をしっかりと振り返り、不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・目標を設定して意欲的に学習に取り組むことができる。 ・積極的に手を挙げ、進んで発表することができる。	・連絡帳の宿題欄を活用し、計画的に学習が進められるよう指導する。 ・掲示カードを活用して学習目標と学習の見通しを明確にし、何をどのようにして学んでいるかを生徒が常に意識できるようにする。 ・「学校力コラボレーション事業」において協力校と連携し、単元またはその一部において、「課題の設定→情報の収集・整理・分析→まとめ、表現する」という探究の過程を意識した学習を展開する。			